

なんでもないその日こそ、あなたの宝物。今日もいいリズムで心は踊る。



心臓血管外科診療部長 村岡 新（むらおか あらた）

平成 16 年 日本大学 卒業
平成 17 年 社会保険中央総合病院
平成 22 年 自治医科大学附属病院心臓血管外科
平成 23 年 自治医科大学附属病院循環器センター外科病院助教
平成 26 年 自治医科大学外科学講座心臓血管外科学部門助教
平成 29 年 自治医科大学外科学講座心臓血管外科学部門講師
令和 2 年 行徳総合病院心臓病・血管病センター副センター長
令和 5 年 自治医科大学附属病院
令和 7 年 東京山手メディカルセンター心臓血管外科診療部長
【主な資格】日本外科学会外科専門医 / 心臓血管外科専門医 / 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施医・指導医 / 心臓血管外科専門医修練指導者 / 腹部大動脈瘤ステントグラフト実施医・指導医
【所属学会】日本外科学会 / 日本胸部外科学会 / 日本心臓血管外科学会 / 冠動脈外科学会 / 冠疾患学会 / 日本血管外科学会
【専門分野】心臓血管外科全般

心臓の病気で手術が必要になるのは、どのような場合でしょうか？

心臓の手術が必要になる病気はいくつかあります。代表的なのは、冠動脈疾患と呼ばれる血管の病気、弁膜症といって心臓の弁の働きが悪くなる病気、そして、生まれつきの心臓の異常、先天性心疾患です。まれに、心臓に腫瘍ができることもあります。

冠動脈というと、心臓の壁を走っている血管のことですか？

そうです。その心臓の壁を這っている血管(冠動脈) が、狭くなったり詰まったりする病気です。狭くなると『狭心症』、完全に詰まってしまうと『心筋梗塞』と呼ばれます。

ああ！ 心筋梗塞！ よく親戚が、家族が、と耳にする言葉ですね。

ご家族や親戚に心筋梗塞や狭心症を診断された方がいる場合、ご自身もリスクが高いことがあります。心筋梗塞そのものが遺伝するわけではありません。親や兄弟に経験がある方は、なりやすい体質や生活習慣を家族で共有していることが多いため、注意が必要です。いわゆる“家族歴”です。

知らなかった！ “遺伝する” というよりも、“なりやすい体質” ということなんですね。 どのような症状がでるのでしょうか？

症状は人によって違いますが、胸の痛みや圧迫感を感じる方が多く、進行すると命に関わることもあります。『ゾウに胸を踏まれているようだ』と表現する方もいらっしゃいますし、『締め付けられるように苦しい』とおっしゃる方もいます。また、走ったわけでもないのに急に息が切れるとか、横になると息が苦しくなる、といった呼吸の変化も見逃せません。冷や汗が出たり、めまいや失神を起こすこともあります。

あれ、なんかちょっと今日は体調悪いな、と思いがちな症状ですね。

そうなんですよ。 “ただの疲れかな” と見過ごしてしまいそうな症状ですが、実は心臓からのサインかもしれないんです。

弁膜症という病気についても教えてください。

はい。弁膜症という病気は、心臓の中にある“弁” がうまく動かなくなる状態をいいます。心臓には血液を一方向に流すための弁がいくつかあるのですが、その弁が硬くなって開きにくくなる場合と、逆に閉まりが悪くなって血

液が逆流してしまう場合があります。

心臓の入り口と出口のドアのことですね。

そのとおりです。代表的なのが『大動脈弁狭窄症』と『僧帽弁閉鎖不全症』です。大動脈弁狭窄症では出口が狭くなってしまうため、心臓は血液を押し出そうと余分な力を使い続けます。僧帽弁閉鎖不全症では、弁が閉まりきらないせいで血液が逆流し、効率よく血液を送れなくなってしまうのです。

心臓は血液がうまく送れなくて疲れちゃいますね。

そうですね。最初は、症状が目立たないことも多いのですが、進んでくるとちょっとした坂道や階段で強い息切れを感じたり、横になると苦しくて眠れないといったことがでできます。足や顔がむくむ、体が重だるい、すぐに疲れてしまう、というのも弁膜症のサインです。

その症状、、、なんだか歳のせいのような気もしちゃいますね。

“年齢のせいかな” と考えてしまう方も多いのですが、実は心臓の弁が原因だった、ということも珍しくないんですよ。こうした症状が出たときも、早めに専門医を受診していただきたいですね。

血液がうまく流れない血管になってたり、心臓がバクバク押し出そうとして疲れちゃうことはわかりました。続いて先天性心疾患という、、

先天性心疾患というのは、生まれつき心臓の構造に異常がある病気のことをいいます。たとえば、心臓の部屋を仕切る壁に穴が開いている『心房中隔欠損』や『心室中隔欠損』といった病気があります。

あ、今度は心臓自体の構造の異常ってことですね。生まれつきってことはもう小さい頃から症状が出ていて……？

いえ、小さい頃は、症状がほとんどなくて気づかれないことも多いんです。成長とともに体が大きくなるにつれて心臓に負担がかかって、初めて症状が出てくる場合があります。たとえば“すぐに疲れる” “体重がなかなか増えない” “息切れしやすい” といった形で現れることがありますし、大人になってから偶然検診で見つかる方もいらっしゃいます。生まれつきの病気と聞くと驚かれるかもしれませんが、今は手術やカテーテル治療の技術が進んでいますので、しっかり対応できる時代になっています。



それで気になる治療ですが、どのような方法があるのでしょうか？

治療の方法は、病気の種類や進行度によって異なります。冠動脈の病気であれば、狭くなった血管を広げるカテーテル治療や血管をバイパスでつなぎ直す手術が行われます。弁膜症であれば、弁を修復したり人工弁に置き換える手術を行います。先天性心疾患は、穴を閉じるカテーテル治療や手術が必要になる場合があります。心臓腫瘍の場合は腫瘍を摘出する手術が中心です。

症状が進んでしまう前に治療を始めることが大切ですね。

治療の選択は一人ひとりで違います。症状の程度や年齢、体のほかの病気、

普段の生活のスタイルなどを考えて、どの方法が一番その方に合っているかを一緒に考えます。例えば、ご高齢の方の手術で、体の負担が大きい場合には、カテーテルを使った体に優しい治療を選ぶこともありますし、逆に若い方や体力のある方には、しっかりと根本的に治す手術をおすすめることもあります。

治療方法もさまざまなんですね。

私は、さまざまな手術や治療を経験してきましたので、複数の選択肢を提示できます。多くの医師は心臓血管外科の中の一分野を専門にしていますが、私は冠動脈バイパスや弁置換・弁形成、大動脈瘤、さらに末梢血管の手術まで、幅広い領域を手がけてきました。



そこですよ！ 先生は多才でありながら、そのひとつひとつの技術も確かだと、高澤副院長も注目されていました。

そういつただけるのは、本当にありがたいことです。私はこれまでに、心臓手術を行っていなかった病院で心臓血管外科の立ち上げに協力したり、若い医師に技術を教えてきたりもしてきました。そうした経験の中で大切にしてきたのは、“患者さんに合わせた治療を幅広く提供できること” です。

その人個人に寄り添った治療法を、先生は迷うことなく自分の引き出しから引っ張り出せるんですね！

患者さんの病気は一人ひとり異なります。ですから、選択肢をたくさん持っていることが、最終的にその方に合った一番良い治療を提案できると思っています。

私たちは、先生のおかげで自分にとって一番適した治療方法を選び好みできるんですね。

選び好みしてください(笑)。例えば大動脈瘤の治療ひとつをとっても、開胸して行う方法とカテーテルで行う方法の2つがあります。片方しかできない

医師だと、どうしても選択肢が偏ってしましますが、私はどの治療方法にも対応できる技術を持っていますので、患者さんにとって多くの選択肢を提供できます。

心臓の手術ってだけでちょっと怖い感じがしますが、先生とならいろいろな選択肢があるので、前向きな気持ちを持つことができそうです。

これまで術者や指導的助手として年間100例ほど心臓や大動脈の手術に携わってきました。手術時間はケースによって異なりますが、平均は4～5時間程度です。複雑な場合は6時間を超えることもあります。逆に1時間ほどで終わる手術もあります。

見た目は元気でも、心臓に負担がかかっていることもあるという、、自分の心臓大丈夫かな!?

健康診断をきちんと受けてみることをおすすめします。家族歴がある方や高血圧、喫煙歴のある方は注意が必要です。健康診断のレントゲンやエコーで偶然見つかることもあります。ご家族で大動脈瘤の既往がある方や心配な方は、特に一度健康診断を受けてみてください。

健康診断、受けたいと思っててもコース内容が難しくて、、

当院には健康管理センターが併設されています。確かにコースもさまざまですが、心臓を中心に検査を行うことも可能です。私の心臓大丈夫かな、と思ったら下記健康管理センター相談窓口までご連絡ください。

健康管理センターで健診を受けて、もし治療が必要になったら村岡先生にすぐに受診できるんですね。

はい、もちろんです。日常の中でも『ちょっとおかしいかも』と思った時は、どうぞ気軽に相談にいらしてください。

それでも、いざ治療や手術となると、大きな不安を抱えます。「術後どう過ごすのか」「どんな制限があるのか」「痛みはどれくらい続くのか」手術する「わたし」以上に家族も不安になります。

手術そのものの不安、術後の生活の不安、そしてご家族の心配…。わかりやすく、そして繰り返し何度も、ご家族にも一緒に説明にして、納得していただくことを一番大切にしています。そして「必要なことを確実に、無駄なことはしない。」その姿勢で、あなたや大切なご家族の“心”と“心臓”を支えていきます。

実は小さなお子さんがいらっしゃる村岡先生。仕事が大変でも、家に帰ると子どもと遊ぶ時間がいちばんのリフレッシュと、笑顔で話されています。家族の尊さ、不安と希望のあいだに揺れながらも、その険しい山を先生と一緒に越えてゆく――そこに、少しだけけど確かな勇気が芽生えそうです。今日は長い時間、お話を聞かせていただきありがとうございました。

あなたの健康発見!!

心ドック

Web
24 時間対応

早期発見 早期治療 ※「わたしの心臓大丈夫かなコース」対応
健康管理センター

相談窓口専用電話
受付時間月～金 12:15～16:45

03-5925-6005

つつじ通信 89 を見たというスムーズです。



再検査や精密検査が 同じ病院で受診可能 です！

42の診療科・外来を有する総合病院ならではの バックアップ体制があります！
専門医による正確な診断を行い、 そのまま当院で迅速な治療が開始 できます！